

データ分析

近年、国際開発にも成果主義が導入されています。政府援助機関も国際機関も公的セクターに入るわけで、公的セクターのパフォーマンスは以前より厳しく判定される傾向にあります。

二国間および多国間政府開発援助が望ましい効果を生み出しているのか、また深紅名反作用を及ぼしていないか、という点について、これまで以上に真剣に分析が加えられるようになってきています。また、このような成果を重視する考え方は NGO の運営にも導入されています。したがって、データを用いて成果や反作用を明示することがしばしば、開発専門家に要請されます。この要請に応えるためには、データの扱いの基本を学ぶことが必要です。本講義では、国際開発に関わる基本的なデータの扱い方、そして統計学および回帰分析の基礎について講義をします。また、実際に関連データを用い、講義の場で分析の実例を示します。

1. はじめに
2. 国際開発の新潮流とデータ分析
 2. 1. 成果主義、数値目標と開発指標
 2. 2. 一人当たり所得と人間開発指数
 2. 3. 貧困指標と不平等度指標
 2. 4. 指数関数、対数関数の使い方
3. 変化とばらつき
4. ばらつきの原因を探る：母集団と標本、確率
5. 様々な分布（分布を特徴づけるもの、正規分布とその兄弟、中心極限定理）
6. 推定（点推定と区間推定）
7. 検定（平均に関する検定、分散に関する検定）
8. 回帰分析と相関分析（最小自乗法、重回帰、ダミー変数、推定バイアス）

講義は基本的に講師のノートに基づきますが、副読本として、佐和隆光『初等統計解析 改訂版』新曜社 1985 年、を用います。

本講義の内容の一部を用いて、IDEAS 実践講座という連続講演会を開催しました。本講義の内容を紹介する適切な資料と考えられますので、ここに公開致します。